

第4回総会を開催、初の試み座談会が好評

= 脱・マイナス思考～感性で市場を開拓する =



木のいえ一番振興協会は5月30日、風來講堂（神泉風來ビル3階、東京・渋谷区）で第4回通常総会を開催しました。総会では、議案審議のほか、主要3事業の紹介や、理事による「木のいえ一番座談会」を行いました。

出席者は会員55名。来賓として国土交通省木造住宅振興室（住宅生産課）の渋谷浩一室長、林野庁木材製品技術開発室（木材産業課）の井口真輝室長、東京大学名誉教授の有馬孝禮先生（当協会名誉会員）、横浜国立大学の矢田茂樹名誉教授（同）、木構造振興株式会社の山田壽夫社長の5名にご出席頂きました。プレス関係者9名。

◇ 挨拶



挨拶をする二木会長

冒頭あいさつで、二木浩三会長は、『この協会は、異業種の代表、つまり木構造、住宅金融、CLT、薪ストーブ、マスコミの代表など、多様な業種で構成される団体である。活動内容はこうした特徴を活かして、「木のいえ」を盛り上げて行くことが大切だ』と語りました。また、『「論語のこれを知るものこれを好むものに如かず」「これを好むものこれを楽しむものに如かず」は幸せ実現の真理だと思う。私は「木のいえ」こそが、暮らしを楽しむのに一番の近道だとの思いで、協会の名前に「木のいえ一番」を使った。「振興」は「盛り上げる」ことだ。4年目を迎えた協会は、「木のいえ」を好きな人たちが力をあわせて、「お祭り集団」として活動して行くことにしたい』と抱負を語りました。



国土省 渋谷室長

来賓を代表して、渋谷浩一室長は、木造住宅振興に対する協会の取り組みについて謝意を述べたうえで、「貴協会は国土省の補助金を活用してCLT実験

第4回総会を開催、初の試み座談会が好評

= 脱・マイナス思考～感性で市場を開拓する =



林野庁 井口室長

棟を建設しデータ収集等を行うことになっている。しっかりと取り組んで頂きたい」と語りました。

また井口真輝室長は、協会の取り組みについて、『初の「現わし使用の手引き」を作成し、新たな視点から木の良さに焦点をあて木材利用促進に取り組んでおり心強く感じる』と賛辞を述べたうえで、「さらに無垢材などの利活用促進に対する取り組みを期待したい」と語りました。

◇ 議事

議事では、28年度事業報告及び決算、三浦祐成理事、鶴沢泰功監事、神山敏監事の役員選任が承認され、29年度事業計画及び予算のほか、企画推進委員会、広報委員会、技術開発委員会の3委員会と現わし事業部会、ログハウス普及部会、CLT事業部会の3部会体制で協会を運営し活動をさらに活性化すること、などが報告されました。

議事終了後、主要3事業のスライド発表が行われ、①木の現わし使用普及への取り組みのほか、②プリミティブログの6月20日販売開始、③12月完成予定のCLTプロジェクトで実験棟の愛称を「ハット」とし、会員からの持ち込み企画を歓迎する考え、が紹介されました。（関係資料を協会HPに掲載します）



プリミティブ・ログハウス イメージ



ハット（CLT実験棟）模型

◇ 木のいえ座談会

三浦祐成理事（新建新聞社社長）の進行で、「脱・マイナス思考～感性で市場を開拓する」をテーマに、二木浩三会長、田鎖郁男理事、北出秀樹理事、中島浩一郎理事による座談会が開催され、参加者から「木のいえ」：木造の将来について、「国内の高級住宅の多くがハウスメーカーの鉄鋼造だ。今こそ鉄から木に取り戻そう」（田鎖副会長）、「シニア世代にログハウスを住宅として建て替える動きが出ている」（北出理事）、「欧州で利用が増加しているCLTが、世界的な木材利用の流れを作っている。日本はこれからだ」（中島理事）、「これまで住宅に効率や利便性が重視され過ぎてきた。モノ的価値だけでなく、自分の



第4回総会を開催、初の試み座談会が好評

＝脱・マイナス思考～感性で市場を開拓する＝

感性と住まいを一致させてゆく。そこに住文化があるのではないか」（二木会長）など、闊達な意見が交わされました。

◇ おわりに

懇親会は、鶴沢泰功監事の発声で始まり、喉を潤しながら名刺交換や交流を行う参加者の姿が見られました。そのなかで座談会について、「面白かった。もっと聞きたかった」との声も聞かれました。

協会は、今次総会で4期目のスタートを元気に切ることができました。ご出席いただいた皆様に心より感謝申し上げます。関係各位におかれては引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

（事務局）